

## 2022年度全国学力・学習状況調査の本校の結果をお伝えします

○令和4年4月19日実施

○第3学年のみ

○国語 50分 数学 50分 理科 50分 生活調査 25分

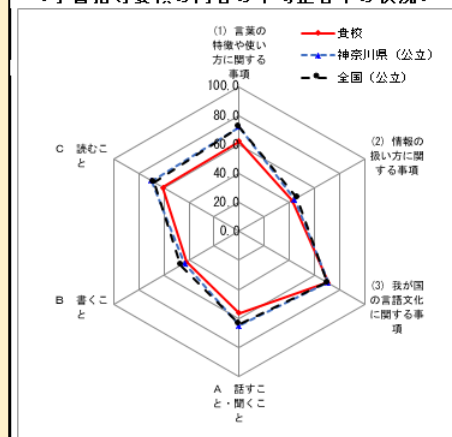
○全国学力・学習状況調査の結果・報告書は、国立教育政策研究所のホームページに詳しく掲載されています。

<https://www.nier.go.jp/22chousakekkahoukoku/index.html>

### ○国語

「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」ともに全国の正答率を下回る結果だった。その中で、「論理の展開に注意して聞く」「事象や行為、心情を表す語句について理解する」はほぼ平均、「行書の特徴や漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解する」は全国の平均値を上回った。今後は語彙を増やし、言葉の特徴や使い方を確認しながら、文章の内容理解や工夫して表現する力を伸ばしていきたい。

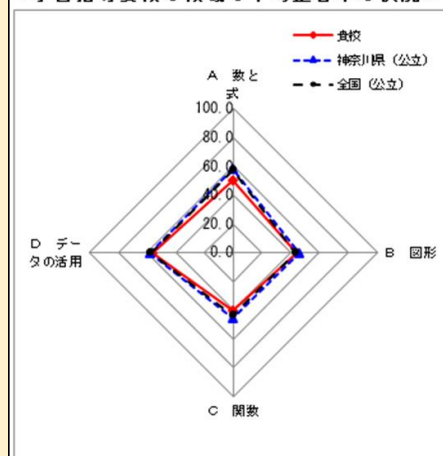
<学習指導要領の内容の平均正答率の状況>



### ○数学

どの観点も正答率も神奈川県平均、全国平均を下回る結果となった。特に「事柄が成り立つ理由を説明すること」や「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明すること」などは、平均を大きく下回っている。しかし、「箱ひげ図から分布の特徴を読み取ること」は県や全国の平均を大きく上回る正答率であった。数と式や関数の領域が苦手な人が多いようなので、引き続き問題演習を多く取り入れながら力を伸ばしていきたい。

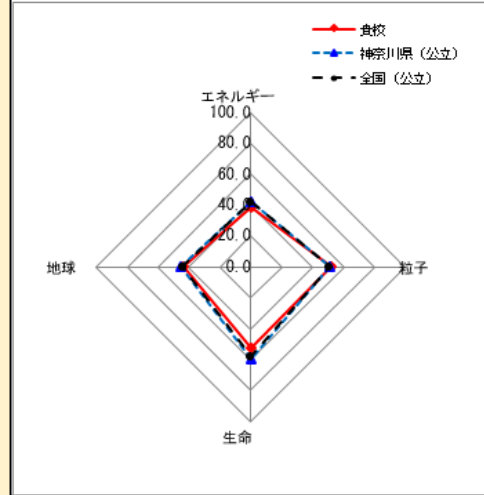
<学習指導要領の領域の平均正答率の状況>



## ○理科

「知識・技能」は全国平均と変わらなかったが、「思考・判断・表現」は全国平均を下回る結果となった。問題別で見ると「気圧、気温、湿度の変化をグラフから読み取り、雲の種類の変化と関連付けて、適切な天気図を選択する」「分子のモデルで表した図を基に、水素の燃焼を化学反応式で表す」の問題では全国平均を大きく上回った。一方「実験に関する操作・考察」に関する問題では全国平均を大きく下回った。コロナ禍での制限はあるが、今後はできる限り実験や予想や考察など考える活動を取り入れ、思考力を伸ばしていきたい。

<学習指導要領の領域の平均正答率の状況>



## ○生活

生活習慣（朝食・就寝・起床）に関しては、全国平均とほぼ同じく約8割が規則正しい生活を送っている。家庭でスマホ、テレビ、ゲーム、動画視聴に費やす時間は、全国平均より高かった。学習については、学習することを大切だと考え、それを将来に生かそうと考えている反面、「家庭学習や計画を立てて学習に取り組むこと」は全国平均をやや下回っている。学校生活では、「学校は楽しい」「友達と協力するのは楽しい」「人の役に立つ人間になりたい」と答えた生徒が9割であった。今後の課題として、全国平均より低い結果となった「自分の思いや考えを表現すること」「意見交換を通して自分の考えを深めたり広げたりすること」の力をつける必要を感じる。そのためには自分の考えを安心して表現できる学校を実現する中で、コミュニケーションの機会を重視し、多様な人と豊かな関わりをもたせたい。

